

技術とマーケットの相互作用が生み出す 産業集積持続のダイナミズム

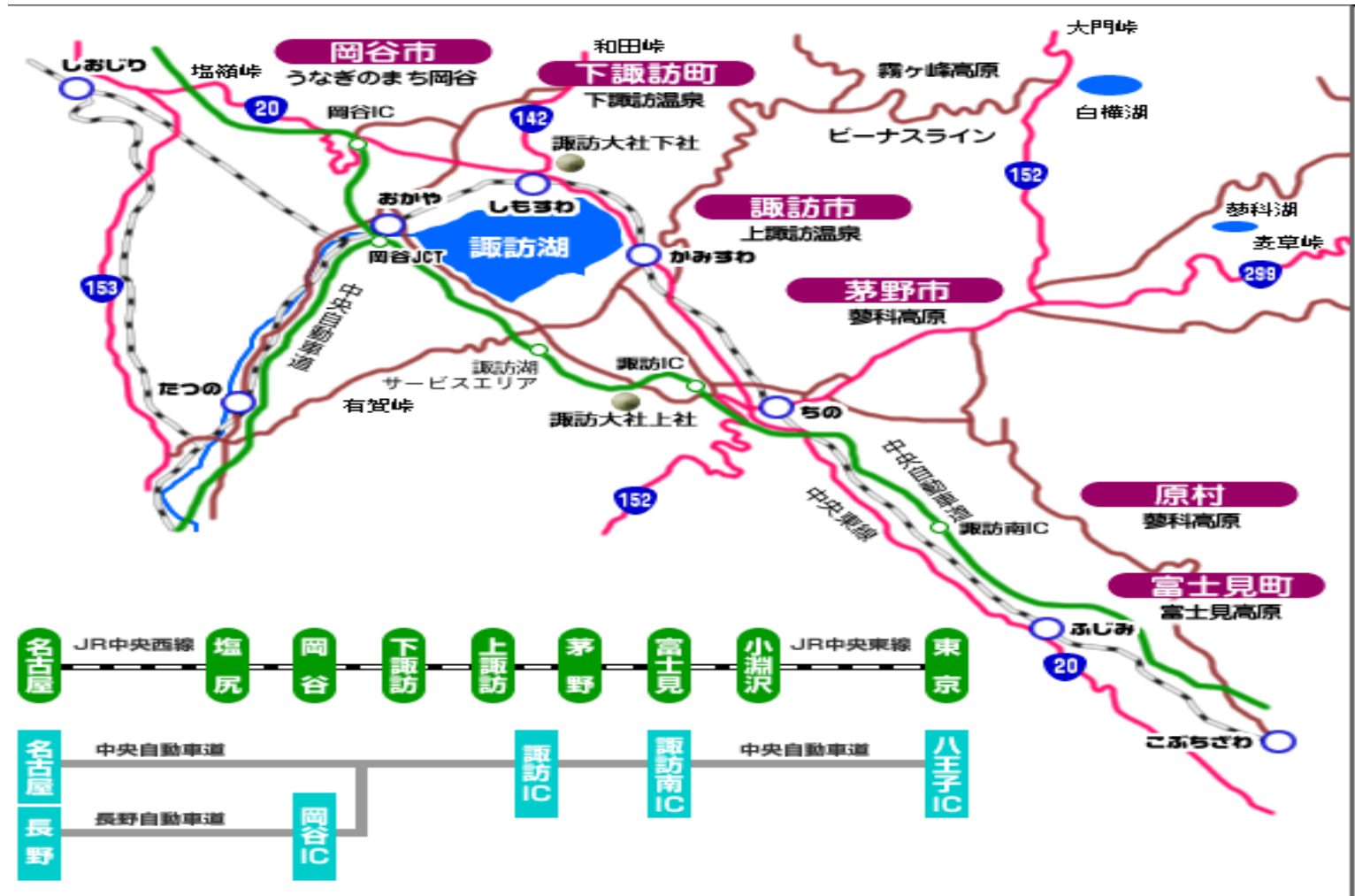
: 諏訪地域では、なぜ競争力維持が可能だったのか

額田春華(日本女子大学)

岸本太一(東京大学)

桑野博行(大阪商業大学)

諏訪地域(3市2町1村)



出所) <http://www.suwakanren.jp/sub05/index.html>



出所) <http://www.onbashira.jp/>

かつての精密機械工業のメッカ 「東洋のスイス」



<http://www.suwakanko.jp/nature/index.html>

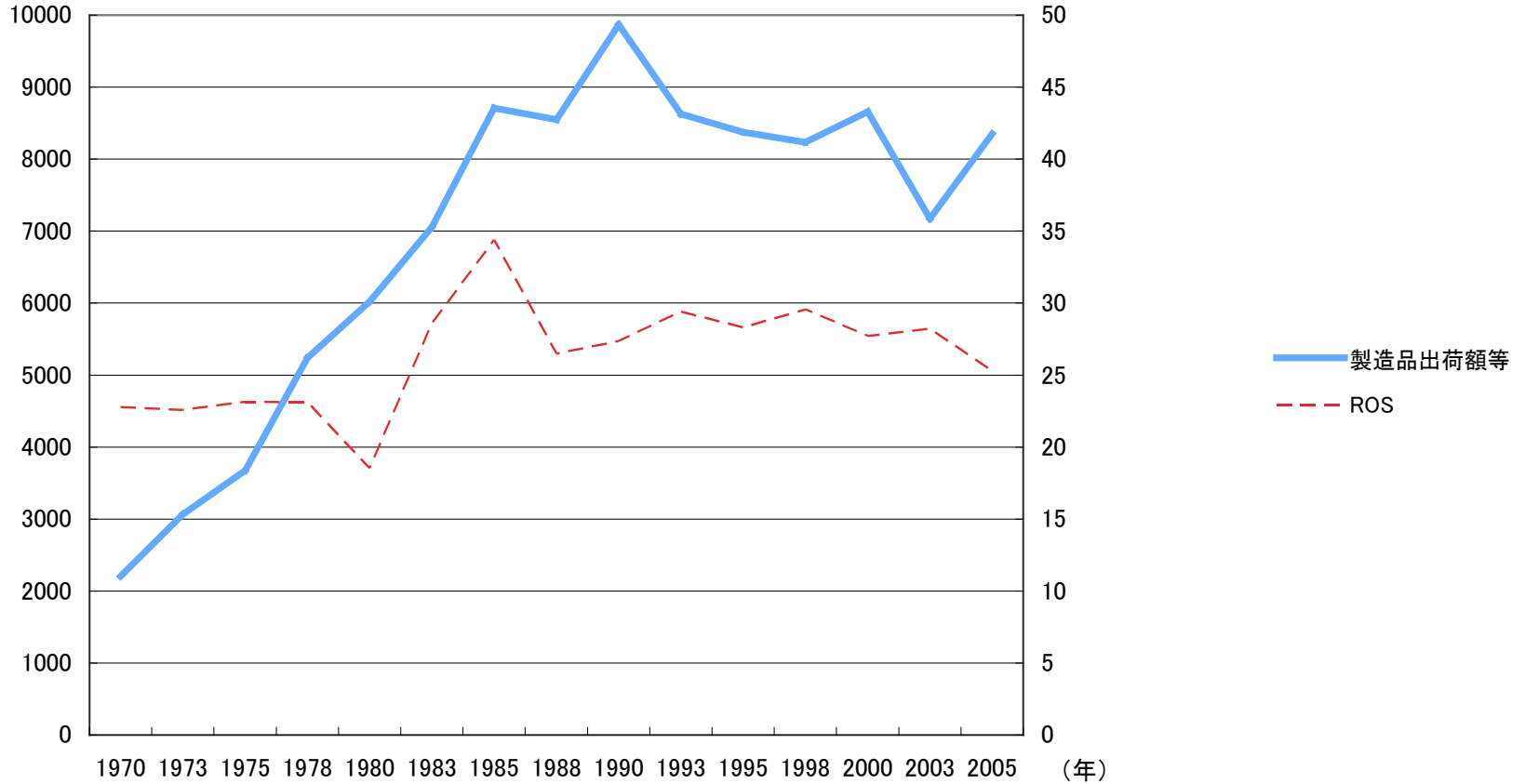
われわれの2つの驚き

1. どの大都市圏ともある程度離れた山間の小都市・及びその周辺に、海外を含む広域の需要を相手にビジネスを展開する多様な中小企業が、逆境を克服する過程で育っている
2. 幾度もの逆境の経験にも関わらず、1985年以降、製造品出荷額、利益率とも維持し続けてきた

製品出荷額等
(1億円)

図1-1: 諏訪地域の出荷額とROS

ROS
(%)



(出所)「工業統計調査報告書」より作成

本研究調査報告書 p3より引用

セントラル・クエスチョン

- 諏訪地域は幾度もの逆境の経験にも関わらず、なぜ競争力を維持し続けることができてきたのか。

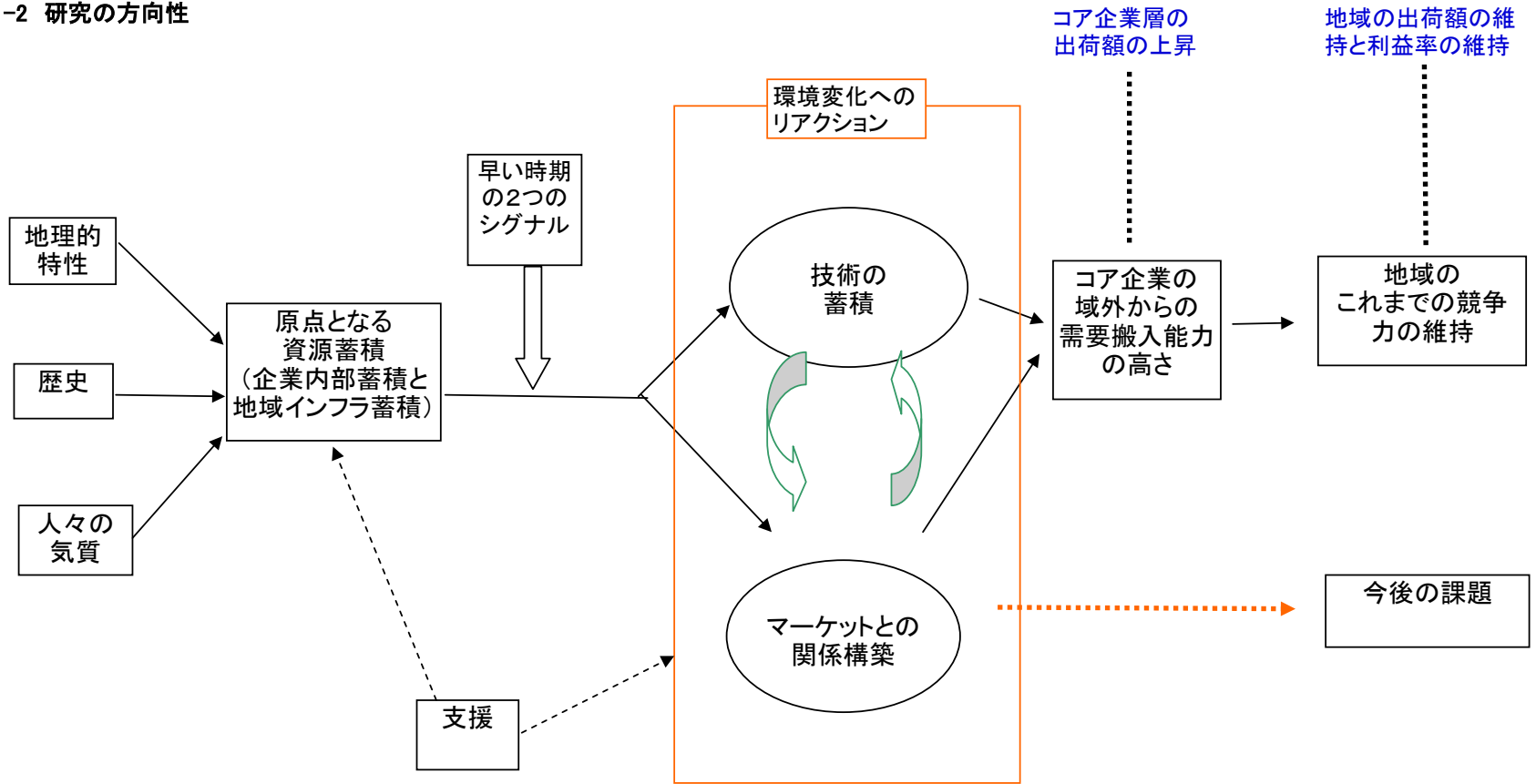
研究の方法

- 事例記述分析
 - 2009年9月から2010年1月にかけて、諏訪地域の22企業、1金融機関、2支援機関へのヒアリング
- マクロデータ分析
 - 1970年から2005年までの工業統計調査結果（1～3人規模も含む全数調査）
- 既存文献研究

メイン・メッセージ

- 「技術の蓄積」と「域外マーケットとの関係構築」の間の好循環がたくみにつくられたからこそ、諏訪地域のダイナミックな競争力維持が可能になってきた！

図1-2 研究の方向性



出所)岸本・桑野・額田・松嶋作成

本研究調査報告書, p3より引用

この後の発表の流れ

- 1) 諏訪地域の工業発展の歴史の概要
- 2) マクロ財務データから見る諏訪地域の競争力
- 3) なぜ、1970年代以降の長期的な競争力維持が可能だったか
- 4) 諏訪地域中小企業における対応力の歴史的形成過程
- 5) まとめと示唆

諏訪地域の産業発展の歴史

- 黎明期: 1870～1930年代
 - － シルクの製糸業の発展
 - － 製糸業の衰退
- 第1の転換期: 1940年代
 - － 軍需品の生産
 - － 疎開企業の一部の定着
- 発展期: 1949年～1960年代
 - － スピンオフ・ブーム
 - － 諏訪を代表する需要搬入企業の成長と、それを頂とした下請け分業構造の形成
- 第2の転換期とその後: 1970年代～現在
 - － 従来 of 諏訪を代表する需要搬入企業に依存することを伝えることの限界を伝える2度のシグナル、そしてバブル経済崩壊